

徒然草は、だからおもしろい!

使用教材: 仁和寺にある法師——「徒然草」から(2年) 福井大学教育学部准教授 萩中奈穂美^{はぎなか なおみ}

1 指導計画(全三時間)

● 目標

◎人物の言動や心情を解釈したり想像したりして古典のおもしろみを味わう。

● 展開

第一時

語句に注意して音読し、大意をつかむ。

第二時

人物の様子や心情について話し合う。

第三時

作者のものの見方・考え方を読み取り、自分の考えをまとめる。

2 指導の工夫・学習の実際

▼あなたは、「かばかり」をどう解釈するか。

この段において多様な解釈の可能性を含みもつ叙述に、法師の心内語「かばかり」(「これだけのもの」と口語訳が付いている)がある。「これだけ」と事実を目で確認するレベルとも、「なんだ、この程度か」という期待外れのレベルとも受け取ることができる。この解釈如何^{いかん}によって、あとの法師の言葉「聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ」の意味合いが大きく変わる。

前者を取れば愚直すぎる法師像が、後者を取れば見栄っ張りの法師像が浮かび上がる。授業では後者を取る生徒が多く、「本物を見ていないのにその価値がわかる」と誇示する姿は滑稽だけでなく、こういう心理は誰にでもある」と理由付けていた。

▼あなたは、「かたへの人」がどのようないや様子で話を聞いていたと想像するか。

第二段落では、「かたへの人」の心中を想像させる。法師は自慢げに参拝を報告するが、石清水の知名度を踏まえれば、「かたへの人」が法師の失態をお見通しなこと、後半の語りがその暴露になったことなどは容易に読み取ることができる。ここで、「かたへの人は、どんな思いや様子で聞いているでしょうね」と投げかけた。古典嫌いの生徒でも身を乗り出す。老人が「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ」と満足しているのだから、目配せしてそっとしておいただろう。気の毒なので今度こそ参拝できるようお伴したくなっただろう。すかさず「それ、石清水ではないですよ」と、「神へ参るこ

そ本意」と偉ぶる鼻をへし折っただろう。他にもひけらかされると総本山の恥になるので、真実を伝えたいだろう、等々。重要なのは根拠を示すことである。この場合の想像は、失敗の原因となった状況や法師の性格の捉え方、また、読み手である生徒のものの見方・

考え方に関わるため、さまざまな意見が出てくる。さらにこれらの意見は、「先達はあらまほしきことなり」と書いた兼好の真意に対する解釈を豊かにする。

3 考察

本実践では、解釈に幅のある叙述を「どう捉えるか」、書かれていない部分を「どう想像するか」と問うた。「あなた」を主語とするこうした問いを軸に、個々の味わい方を交流することが、古典に自ら心を寄せ、その世界を楽しむ態度を育むものと期待する。それには、根拠を求めつつ多様な読みのできる叙述を探る教材研究が必要である。